

Inversion_Reflection1 #0

油彩、キャンバス、麻紐、木枠 Oil on canvas, hemp twine, wooden frame

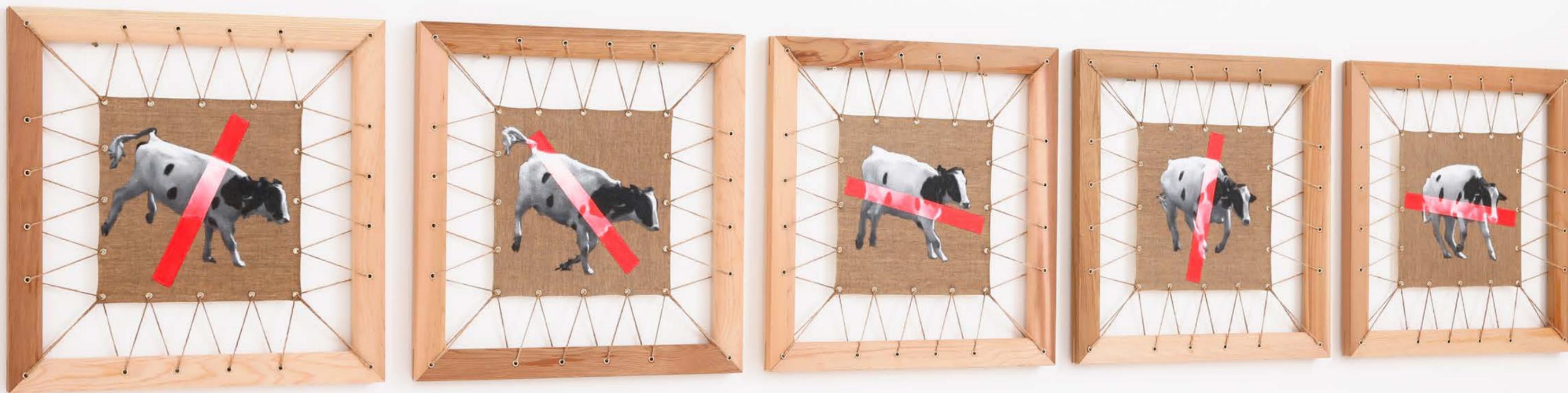
162 x 112 cm

2019

ACG ID #8784

2019: *Seishu Niihira at ART OSAKA 2019* [ARTCOURT Gallery], Hotel Granvia Osaka, Osaka

2019: 個展、ART OSAKA 2019[アートコートギャラリー]、ホテルグランヴィア大阪



Inversion_Reflection2 #1

油彩、キャンバス、麻紐、木枠 Oil on canvas, hemp twine, wooden frame

45.5 x 45.5 cm

2019

ACG ID #7818

2019: *Seishu Niihira at ART OSAKA 2019* [ARTCOURT Gallery], Hotel Granvia Osaka, Osaka

2019: 個展、ART OSAKA 2019[アートコートギャラリー]、ホテルグランヴィア大阪



Division

Oil on aluminum panel 油彩、アルミ板

160 x 160 cm each, set of 8 pieces.

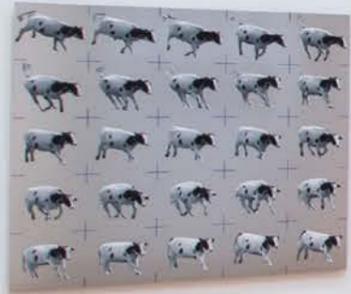
2018

ACG ID #8085

2018: *DiVISION*, ARTCOURT Gallery, Osaka

2018: 個展「DiVISION」アートコートギャラリー、大阪

ARTCOURT Gallery



Seishu Niihira: *DiVISION* | 新平誠洙「DiVISION」

2018. 3. 27 - 4. 28
ARTCOURT Gallery, Osaka

ARTCOURT Gallery presents *DiVISION*, a solo exhibition of new works by Seishu Niihira.

Focusing on the distortion and division of space that defines the phenomena of noise, Niihira began constructing his own pictorial world since his time as a postgraduate student, around themes such as multiple time axes and optical principles. While being realistic depictions, works such as his *Reflection* series combine dissimilar images while keeping their contours ambiguous, and the *Refraction* series of works cover the picture plane with an impressionistic hand, and try to capture the reality of the subject through dynamic variations in expression. Through an experimental approach that uses the phenomena of reflection, transmission, and refraction of light, and visual effects, he continues to pursue the contemporary expression of time and space in painting.

Last year, through his experience staying in the U.S. and the Netherlands for half a year, the realm of Niihira's works that mingles reality with illusion turned from monochrome towards color. By shifting to a thin metal panel for his support medium, the stratified composition of the image was further complicated, thus completing *Diffraction #1*, a work that shows undulating and splitting movement. One societal phenomenon is the adaptation to the bundles of information that flow from the Internet in rough segments, leading to the dispersal of countless thoughts and feelings of individuals. Along with the time and existence distinct to virtual space, there is also the reality of an information network gradually manifested between people. Taking these phenomena as cues, Niihira has come to a breakthrough in his art making, and now refers to the splitting of an individual's field of view from within as *DiVISION*.

This exhibition will be composed of works such as *Diffraction #1*, and a major work, *Division*, a set of eight paintings that are fusions of personal desires to see, as well as the series *Inversion*, which collects and places multiple images into a sequence on a single plane, using time and space as themes. We hope that you will come experience this fascinating world of painting that questions the contemporary ability to share images and the act of seeing, along with inciting people's instinctive pleasure in seeing.

アートコートギャラリーでは、新平誠洙の新作個展「DiVISION」を開催します。

空間の歪みや分裂といったノイズ現象に着目し、新平は院生の頃より、複数の時間軸や光学原理をテーマに独自の絵画世界を築き始めました。写実的な描写でありながら、対極するイメージの輪郭を曖昧なままに組み合わせさせた《Reflection》シリーズや、チップ状の筆致で画面を覆い、モデルの実体を動的変化でとらえよう試みる《Refraction》シリーズなど。光の反射・透過・屈折現象と視覚効果を用いた実験的なアプローチで、現代における絵画の時間と空間表現を探求し続けています。

昨年、半年間の渡米・渡蘭の経験を経て、現実とイリュージョンが交錯する新平の作品世界はモノクロームからカラーへと転換。支持体を厚みのない金属板へとシフトさせ、さらにイメージの階層構造も複雑となり、波動や分裂のような動きを見せる《Diffraction #1》を完成させます。日々インターネットからぶつ切りに流れてくる情報パッケージに順応して、個人の思想・感情が無数に分散していく社会現象。仮想空間の生死にあわせて、徐々に顕在化する人々の精神的ネットワークの実態。新平はそれらをヒントに制作の新機軸を生みだし、分裂化した個人の内側からの視界を「DiVISION」(分裂視)と名づけました。

《Diffraction #1》をはじめ、私的な見る欲求をストレートに融合させた8点組の大作《Division》、また、一画面の中でイメージを連続・集積させるなど、時間と空間をテーマにした《Inversion》シリーズによって本展は構成されます。現代的なイメージの共有化や人々の見る行為に対する問いかけとともに、本能的な見る快楽を刺激する魅惑の絵画世界をぜひご体感ください。



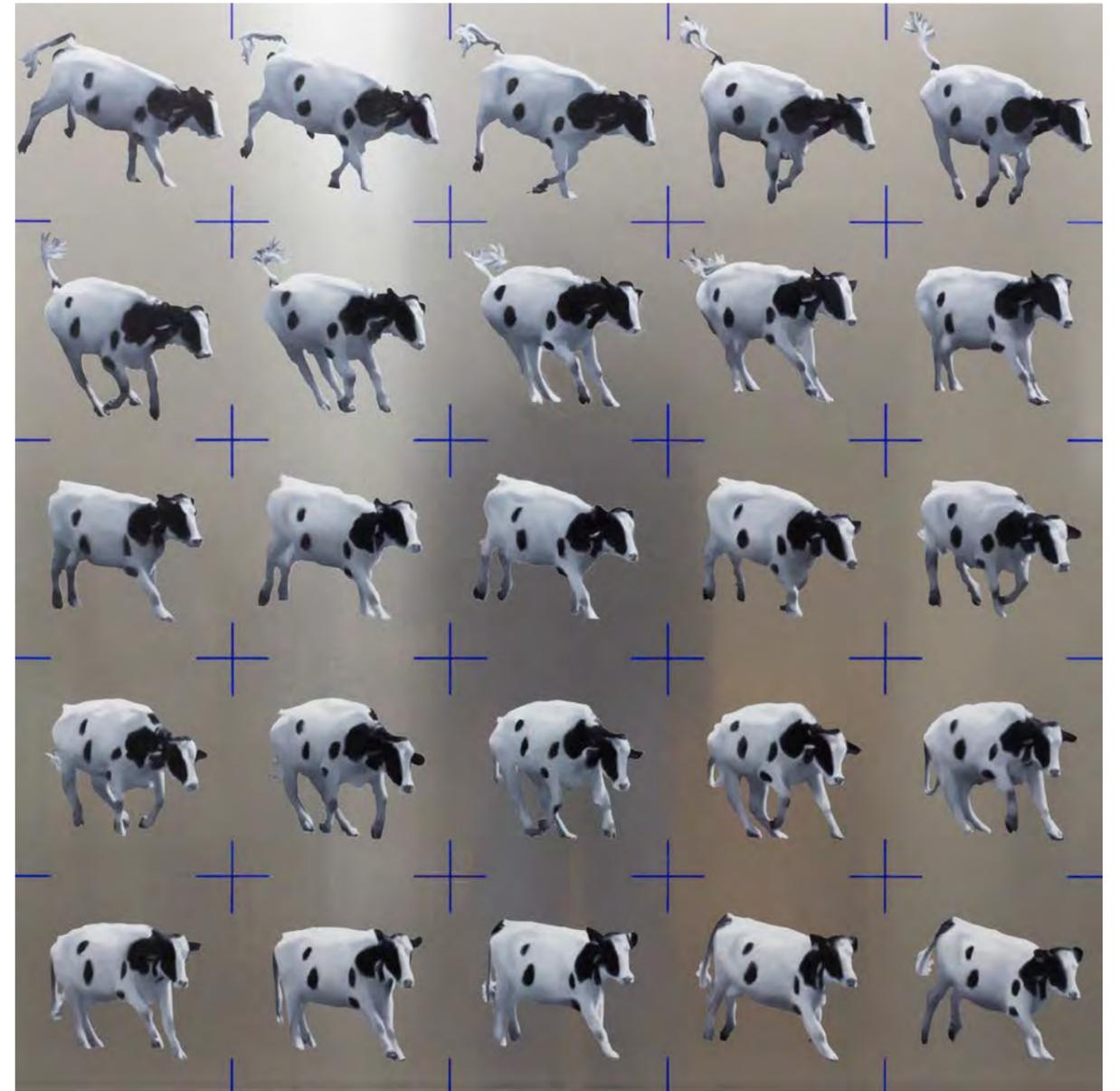
2018: *DiVISION*, ARTCOURT Gallery, Osaka



Diffraction #1

Oil on aluminum panel 油彩、アルミ板
160 x 160 cm
2017

2018: *DiVISION*, ARTCOURT Gallery, Osaka
2018: 個展「DiVISION」アートコートギャラリー、大阪



Inversion1 #1

Oil on aluminum panel 油彩、アルミ板
90 x 90 cm
2018

2018: *DiVISION*, ARTCOURT Gallery, Osaka
2018: 個展「DiVISION」アートコートギャラリー、大阪

Seishu Niihira: *windows upset* | 新平誠洙「windows upset」

2015. 6. 9 – 7. 18
ARTCOURT Gallery, Osaka

京都市立芸術大学大学院に在籍し、意欲的に絵画制作に取り組む新平誠洙による初の個展を開催します。

新平は、自らの頭や手の中に湧き起こる内的なイメージを、夢と現実が溶け合うシュール・レアリスティックな絵画世界として描き出してきました。近年は、そうした絵画を描くなかで発生する複数の時間軸や、形や色の関係が生み出す空間の歪み・分裂といった「ノイズ」現象に着目。それらを独自の方法论と描画力によって意識的に操作し、イメージに潜む矛盾や不確かさを顕在化・増幅させるような表現を展開しています。

複数の対象を交互の縦縞状に、あるいは不完全な二重写しのように描く。カンヴァスを物理的に分割し、同一のモチーフを異なる視点・時間で切り取った断片的なイメージとして分散させる。さらに最近では、日常で目にする様々な風景を、反射・透過・屈折といったガラス面に生じる光学現象の原理を適用しながら組み合わせて画面を構成することで、絵画における時空間とその知覚の問題をより端的に、そしてより根本的なレベルで追求しようと試みています。

対象は写実的に描かれる一方で奥行きや厚みを注意深く排除され、極めて表層的なイメージとして同一平面上に閉じ込められてゆきます。そこでは、異質なイメージが一部では溶け合い、一部では反発し合い、また一部では他者を侵しながら、異質なまま同居しています。そうした画面に向き合うとき、描かれた空間を統合し、そこに内包される時間に一定の流れを見出そうとする鑑賞者の視線は、周囲への埋没と前景化、断絶と連結を繰り返す諸要素の目まぐるしい運動によって翻弄され、絵画の表面で行き惑うことを余儀なくされます。

新平が生み出す画面と認識の間に起こるこうした知覚作用は、インターネットを基盤とした活動やコミュニケーションが比重を増し、いくつもの仮想的・実在的な時空間が混ざり合う現代の生活のなかで日々経験され、蓄積されている多元的な現実感を想起させます。そして、完全には統合されることなく画面上で宙づりにされた絵画の時空間は、「イメージ」と「見ること」を可能にしながら、それ自体は目に見えない視覚世界の骨組みそのものを私たちに垣間見せ、絵画という存在自体を動揺させるインパクトを秘めているかのようでもあります。

本展は、作家にとってイメージが内包する複雑さを最も顕著に現す媒体である「窓」をキー・コンセプトに、モノクロと蛍光色のみで展開する実験的な新作群を中心に構成されます。



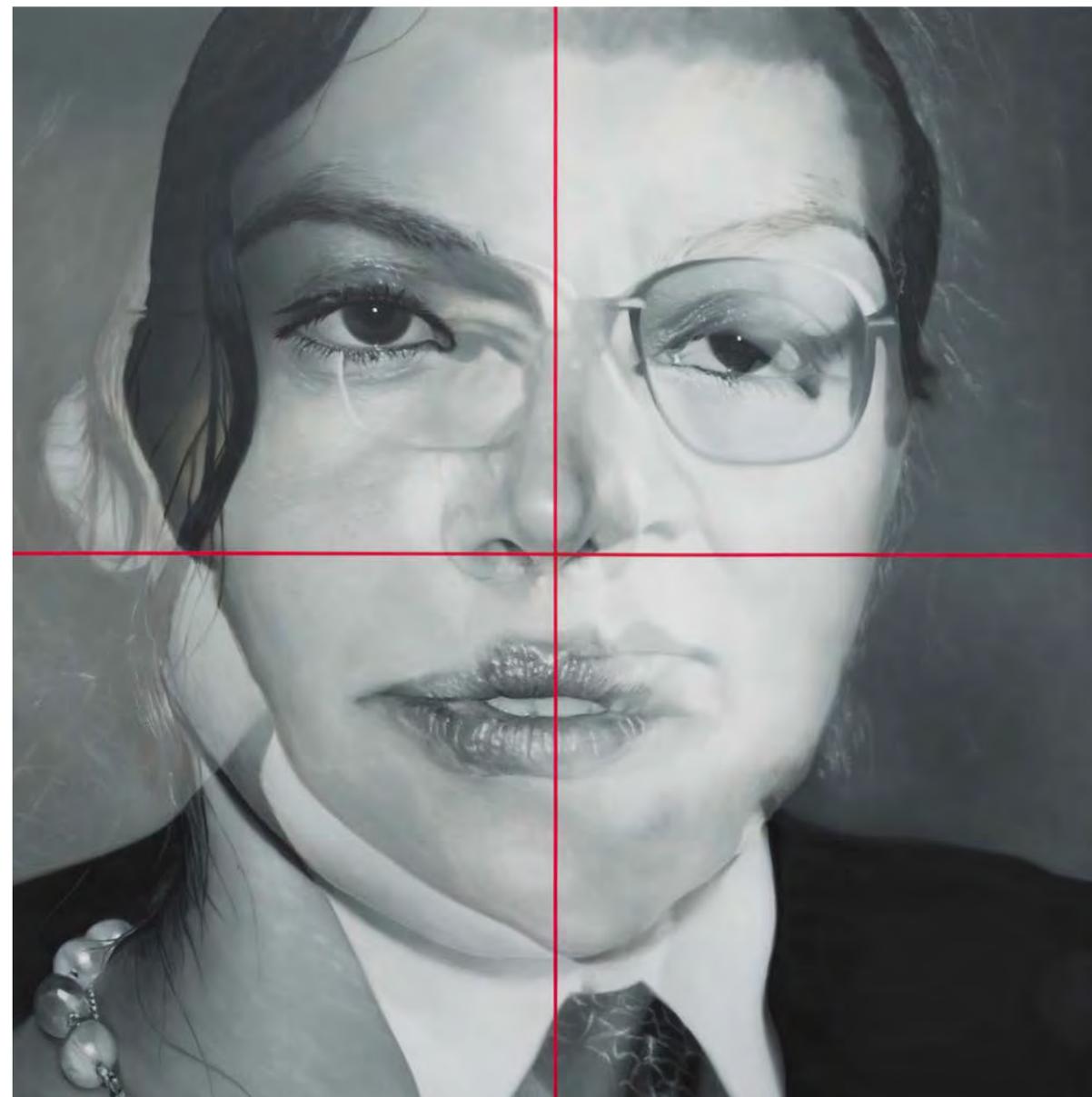
2015: *windows upset*, ARTCOURT Gallery, Osaka



Reflection #1

Oil, alkyd resin, canvas 油彩、アルキド樹脂、キャンバス
162 x 162 cm
2015

2015: *Seishu Niihira: windows upset*, ARTCOURT Gallery, Osaka
2015: 個展「windows upset」アートコートギャラリー、大阪



Reflection #2

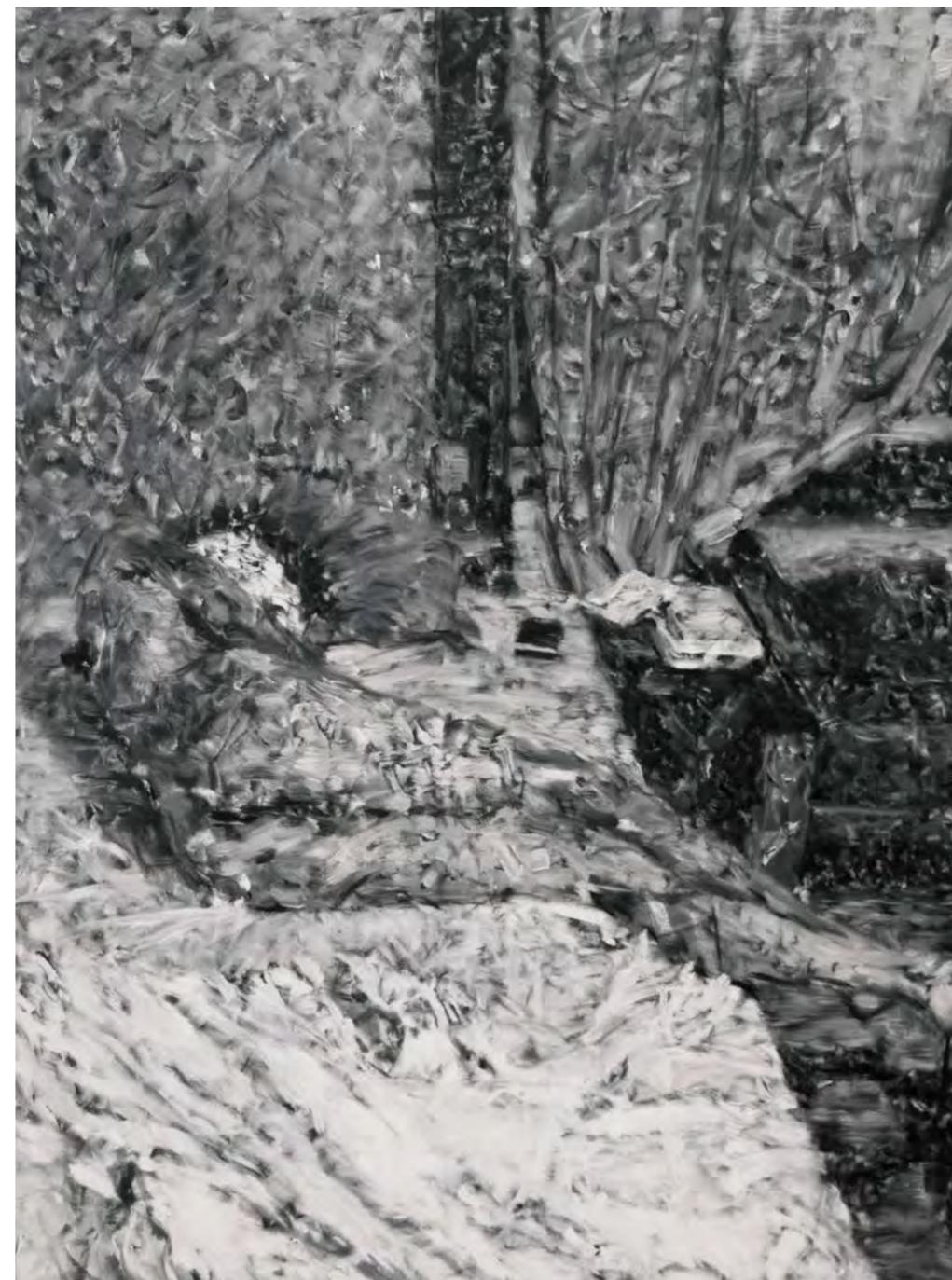
Oil, alkyd resin, canvas 油彩、アルキド樹脂、キャンバス
162 x 162 cm
2015

2015: *Seishu Niihira: windows upset*, ARTCOURT Gallery, Osaka
2015: 個展「windows upset」アートコートギャラリー、大阪



Refraction #6

Oil on aluminum composite panel 油彩、アルミ複合板
90 x 90 cm
2017



Refraction #2

Oil on canvas 油彩、キャンバス
140 x 105 cm
2015

2015: *Seishu Niihira: windows upset*, ARTCOURT Gallery, Osaka
2015: 個展「windows upset」アートコートギャラリー、大阪



2018: Meiji 150-nen: Kyoto no kiseki Project / With Works from the Collection of the Kyoto City University of Arts Art Museum
"Yoichiro Tamura: Hell Scream", Kyoto City University of Arts Gallery @KCUA, Kyoto



2019: The ACG Collection - Yasuaki Onishi, Seishu Niihira, Katsunori Mizuno, ARTCOURT Gallery, Osaka

Hell Screen

Oil, aluminum panel 油彩、アルミ板
150 x 519 x 51 cm (6-panel folding screens)
2018

ACG ID #8451

2019: The ACG Collection, ARTCOURT Gallery, Osaka

2018: Meiji 150-nen: Kyoto no kiseki Project / With Works from the Collection of the Kyoto City University of Arts Art Museum "Yoichiro Tamura: Hell Scream", Kyoto City University of Arts Gallery @KCUA

2019: The ACG Collection - 大西康明、新平誠洙、水野勝規 (アートコートギャラリー、大阪)

2018: 明治150年・京都のキセキ・プロジェクト／京都市立芸術大学芸術資料館収蔵品活用展 田村友一郎『叫び声／Hell Scream』
(京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA)

アルミ無垢板の六曲屏風半双。描かれている人物は、田能村直入と富岡鉄斎。文人画家の二人の肖像がモンタージュのように重なり、分裂する「Hell Screen (地獄変屏風)」。

幕末から明治時代にかけて活躍した田能村直入は、京都府画学校の創立者の一人であり、煎茶道の発展に寄与したことで知られる。富岡鉄斎は日本最後の文人とも謳われ、京都市美術学校にて教員として修身を教えた。二人は共に日本南画協会を設立し、良き友人関係にあったが、直入の死後、鉄斎は直入が地獄に落ちた絵を描いた。

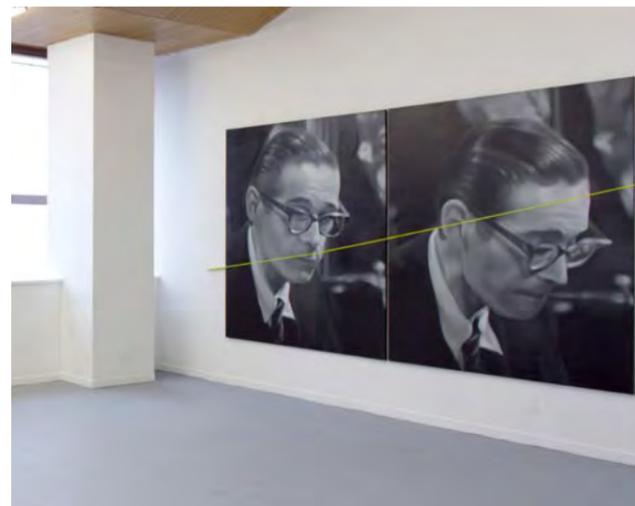
「地獄変」屏風を描いた絵師の良秀の物語として大正七年の芥川龍之介『地獄変』がある。見たことの無いものは描けぬという良秀は、実際に牛車を燃やし焼け死ぬ女の姿を見たいと大殿様に申し出る。それを愛娘で現されてもなお良秀は題材の美として恍惚と見つめ、地獄絵の完成に注力し、描き上げた翌夜に良秀は自死した。

新平誠洙は、思想や感情、生死が無数に分散していくインターネット社会の実態を見つめ、絵画を通して現代的なイメージの共有化や見る行為を問い掛ける作品を近年多く制作しています。「絵を描けば描くほどに社会や家庭、親しい人たちから物理的な距離が離れていくのを感じ、それを奥深い部分では自分でも求めているように思う」(新平)。

本作では、時代や次元を超えて、画家たちの孤独と地獄が共鳴します。

注：

本作品は、展覧会「明治150年・京都のキセキ・プロジェクト／京都市立芸術大学芸術資料館収蔵品活用展 田村友一郎『叫び声／Hell Scream』」(2018、京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA)に向けて制作されました。当該展覧会は、二つのテーマ「叫び声／Hell Scream」「地獄変／Hell Screen」と言葉のつながりで構成され、新平の作品は後者における絵師・良秀役として展示されました。富岡鉄斎が描いた田能村直入の死後の地獄に落ちた絵を、京都市立芸術大学内の資料から見つけ出したことを発端に、田村氏は現在の京都市立芸術大学出身の前身である京都府画学校・京都市美術学校から続く足跡を辿りながら、画家にとっての「地獄、悲鳴、それは何か」を表す意図を込めて、新平へ作品制作を呼び掛けました。



Bill with T

Oil on canvas 油彩、キャンバス
200 x 180 cm (Set of 2)
2014

2014: *Kyoto City University of Arts Annual Exhibition*, Kyoto City University of Arts
Surge / Reblog, Contemporary Art Space Osaka, Osaka

2014: 京都市立芸術大学作品展 (京都市立芸術大学)
新平誠洙/岸本光大「Surge / リブログ」(海岸通ギャラリー CASO、大阪)



unchastity tennis, a fat man jumping in

淫乱テニス、飛び込む肥満

Oil on canvas board 油彩、キャンバスボード
120 x 92 cm (Set of 8)
2013

2014: *Surge / Reblog*, Contemporary Art Space Osaka, Osaka

2013: *Kyoto City University of Arts Annual Exhibition*, Kyoto Municipal Museum of Art
The Apple Triangular, Studio J, Osaka

2014: 新平誠洙/岸本光大「Surge / リブログ」(海岸通ギャラリー CASO、大阪)

2013: 京都市立芸術大学作品展 (京都市美術館)
△のリンゴ - この世界を変える 4 つ目のリンゴについての仮説 - (studio J、大阪)

イメージ重ね独自の絵画 新平誠洙展 大阪

壁一面に広がる8点組みの大作。各画面にはスポーツクライミングの一種、ボルダリングに挑む男性が描かれている。だが目を凝らすと、その奥に人気アニメの四つの場面、さらには男性の頭部が浮かび上がる。「Division」(八分裂)と題された本作はアートコートギャラリー(大阪市北区)で開催中の画家、新平誠洙(30)の新作個展で発表されている。

大阪出身の新平は複数の異なるイメージを重ね合わせ、あいまいな美

新平誠洙と新作「Division」



「自身のリアリティー」を描く

「アニメには「生と死の間」というイメージがあるという。フォトショップで合成した画像をリアルに写した絵はどれも写真のようだ。「絵である理由を絵画の物質性に頼りたくない。自分の身体で描く」という行為こそその意味がある。自らのリアリティーにストイックなまでに忠実な姿勢が、唯一無二の絵画を生み出している。

28日まで。日・月休み。アートコートギャラリー(06・63354・5444)。**【清水有香、写真も】**

体を絵画化してきた。本展ではキャンバスからアルミ板へと支持体を変え、多層的でありながらよりフラットな世界を構築するなど新たな試みがうかがえる。

「Division」はインターネット上の画像から、「強烈なイメージ」と感じたものを組み合わせた。「ネットから流れるさまざまな情報に混乱しながらもそれを見ようとす自分のリアリティーを絵にした」と新平。体と頭を使って壁に挑むボルダリングには「生」、過激派組織「イスラム国」によって斬首された頭部には「死」、二次元の世界で動

毎日新聞(大阪 夕刊) 2018年4月18日 7面

もろ関西

挑む人

現代美術家 新平 誠洙さん(29)

現実と非現実が溶け合い、イメージが無限に連続するかのよう絵画を制作する。新作を集めた個展「DIVISION」が大阪市北区のアートコートギャラリーで開催中だ(28日まで)。作品の想を得たのはインターネットで氾濫する無数の動画のありようから。「現代人は動画を通して様々な現実と向き合う」。大事件から個人的な出来事、ささいな現実まで、動画の中ではすべてが等価でフラットだ。「自分も画面の中で多様な現実をフラットに表現したい」

例えば連続する乳牛の列を描いた作品。同じような牛ばかりでいて、全く同じ牛は一頭としていない。一瞬で「消費」され二度と顧



みられない、現代における現実の扱われ方を思わせる。隣の大画面には、壁をよじのぼるボルダリングの選手の姿がいくつも描かれている。だが目をこらすと、巨大な人間の頭部が隠し絵のように浮かび上がる。中東のテロの被害者だという。動画からの情報は時に重層的で複雑だ。「個々人が動画を通し、社会とどう関わるか。自分の作品から考えてもらえれば」という狙いが込められている。

◇ ◆ ◇

大阪市出身で京都市立芸術大学と同大学院に学んだ。3月末で大学院を自主退学し、独り立ち。今回の個展は学生としての自分の集大成だ。今回はアルミ板に油彩の手法を選び、手法としてもフラットさを追求した。「これからどれだけ多くの人に作品を見てもらえるかが課題。画風もテーマもどんどん新しいものを追求したい」と意欲を語る。

(大阪・文化担当 田村広済)

日本経済新聞(夕) 2018年4月10日 11面